

## 第 369 回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成 28 年 7 月 11 日 (月) 18 : 00

場所：大阪大学医学部 講義棟 2 階 B 講堂

### 「胎生期エタノール曝露による脳発達障害」

金沢医科大学 解剖学 I 准教授 坂田 ひろみ先生

エタノールは代表的な teratogen の一つであり、エタノールによる発達障害は環境要因に起因した先天異常の中では最も頻度が高いと考えられている。1980 年に「胎児性アルコール症候群 (FAS)」の診断基準 (1. 出生前および後の発育遅延、2. 特徴的顔貌所見、3. 中枢神経系の機能障害の 3 項目を全て満たす) が示され、日本でも FAS 症例が報告されるようになった。しかし、エタノールによる発達障害は、FAS と診断される重篤なものだけではなく、ごく軽度の機能障害のみを示す場合もあることから、近年は多様な重篤度を包括した「胎児性アルコールスペクトラム障害 (FASD)」という名称が用いられるようになってきている。エタノールによる発達障害では中枢神経系の機能障害が大きな問題となるため、その発症機序の解明や予防法の検討が行われてきた。今回、胎性期エタノール曝露により引き起こされる脳の発達障害について、ヒト症例および動物モデルによるこれまでの知見をまとめ、エタノールの神経発生毒性について近年の取り組みを交えながら紹介したい。

世話人：産科学婦人科学教室 富松 拓治

E-mail: tomimatsu@gyne.med.osaka-u.ac.jp

---

次回 370 回 CNC は、伊藤壽記先生のお世話で平成 28 年 9 月 12 日(月)開催予定です。